

# Ⅳ 関係資料

別紙様式1 平成29年度教育課程表 熊本県立第二高等学校 全日制

学校番号 (4)		学 科		普通科		学 科		熊本県立第二高等学校 全日制	
入 学 年 度		平成29年度		平成29年度		平成29年度		入 学	
平成29年度現在学年〇印		Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		計	
教科	科 目	履修単位	全	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
国語	国語総合	4	4						4
	現代文B	4							4
	古典A	2							2
	古典B	4							4
地理歴史	世界史A	4							4
	世界史B	2							2
	日本史A	2							2
	日本史B	4							4
公民	現代社会	2							2
	倫理	2							2
	政治・経済	2							2
	倫理応用	2							2
数学	数学Ⅰ	3							3
	数学Ⅱ	4							4
	数学Ⅲ	6							6
	数学Ⅳ	2							2
理科	物理学基礎	2							2
	物理	4							4
	化学基礎	2							2
	化学	4							4
生物	生物基礎	2							2
	生物	4							4
	地学基礎	2							2
	地学	4							4
保健体育	体育	7~8							7~8
	保健	2							2
	音楽Ⅰ	2							2
	音楽Ⅱ	2							2
芸術	美術Ⅰ	2							2
	美術Ⅱ	2							2
	情報Ⅰ	2							2
	情報Ⅱ	2							2
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3							3
	コミュニケーション英語Ⅱ	4							4
	コミュニケーション英語Ⅲ	4							4
	英語表現Ⅰ	2							2
家庭情報	家庭基礎	2							2
	社会と情報	2							2
	各学科共通教科計	20	20	30	31	31	31	89	91
	家庭フロンティア	2~10		2					2
探究	グローバルリサーチⅠ	2							2
	グローバルリサーチⅡ	2							2
	グローバルリサーチⅢ	1							1
	学校設定教科計	2	2	1	1	1	1	5	5
特活	ホームルーム活動	1	1	1	1	1	1	3	3
	総合的な学習の時間	3~6							3~6
	合 計		33	33	33	33	99	99	99

1 2年次系の2〇印は、該当科目の中から1科目を選択する。  
 3年次系の2〇印は、該当科目の中から1科目を選択する。  
 3年次系の2〇印は、2年時に3単位履修した科目と同じ科目とする。  
 ※「探究」は学校設定教科、「グローバルリサーチⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は学校設定科目である。  
 ※「倫理応用」「数学応用」「生物応用」「地学応用」は学校設定科目である。  
 ※「総合的な学習の時間」3単位と「社会と情報」2単位は学校設定科目「グローバルリサーチ(Ⅰ~Ⅲ)」の5単位で代替する。  
 ※数学Ⅱの学習は、数学Ⅰの範囲の学習を終了した後に行う。  
 ※2年次系の数学Ⅲの学習は、数学Ⅱの範囲の学習を終了した後に行う。

別紙様式1 平成29年度教育課程表 熊本県立第二高等学校 全日制

学校番号 (4)		学 科		藝術科		学 科		熊本県立第二高等学校 全日制	
入 学 年 度		平成29年度		平成29年度		平成29年度		入 学	
平成29年度現在学年〇印		Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		計	
教科	科 目	履修単位	全	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
国語	国語総合	4							4
	現代文B	4							4
	古典A	2							2
	古典B	4							4
地理歴史	世界史A	2							2
	世界史B	4							4
	日本史A	2							2
	日本史B	4							4
公民	現代社会	2							2
	倫理	2							2
	政治・経済	2							2
	倫理応用	2							2
保健体育	体育	7~8							7~8
	保健	2							2
	音楽Ⅰ	2							2
	音楽Ⅱ	2							2
芸術	美術Ⅰ	2							2
	美術Ⅱ	2							2
	音楽Ⅰ	2							2
	音楽Ⅱ	2							2
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3							3
	コミュニケーション英語Ⅱ	4							4
	コミュニケーション英語Ⅲ	4							4
	英語表現Ⅰ	2							2
家庭情報	家庭基礎	2							2
	社会と情報	2							2
	各学科共通教科計	20	16	16	16	16	63	63	63
	家庭フロンティア	2~6							2~6
音楽	音楽Ⅰ	5~8							5~8
	音楽Ⅱ	8~14							8~14
	音楽数学特論	3~6							3~6
	音楽物理	3~12							3~12
理科	理化学	3~12							3~12
	理化学特論	3~12							3~12
	理化学特論Ⅱ	2~4							2~4
	スーパーサイエンスⅠ	1							1
探究	アートサイエンスⅠ	2							2
	アートサイエンスⅡ	1							1
	アートサイエンスⅢ	2							2
	学校設定教科計	12	16	16	16	16	64	64	64
特活	ホームルーム活動	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合的な学習の時間	3~6							3~6
	合 計		33	33	33	33	99	99	99

1 2年次系の2〇印は、該当科目の中から1科目を選択する。  
 3年次系の2〇印は、該当科目の中から1科目を選択する。  
 3年次系の2〇印は、2年時に3単位履修した科目と同じ科目とする。  
 ※「探究」は学校設定教科、「アートサイエンス(Ⅰ~Ⅲ)」は学校設定科目である。  
 ※「倫理応用」「数学応用」「生物応用」「地学応用」は学校設定科目である。  
 ※「総合的な学習の時間」3単位と「社会と情報」2単位は、学校設定科目「アートサイエンス(Ⅰ~Ⅲ)」の5単位で代替する。  
 ※「音楽Ⅰ」は学校設定科目である。

別紙1 平成29年度教育課程表 熊本県立第二高等学校 全日制

学校番号 (4)		学 科		藝術科		学 科		熊本県立第二高等学校 全日制	
入 学 年 度		平成29年度		平成29年度		平成29年度		入 学	
平成29年度現在学年〇印		Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		計	
教科	科 目	履修単位	全	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
国語	国語総合	4							4
	現代文B	4							4
	古典A	2							2
	古典B	4							4
地理歴史	世界史A	2							2
	世界史B	4							4
	日本史A	2							2
	日本史B	4							4
公民	現代社会	2							2
	倫理	2							2
	政治・経済	2							2
	倫理応用	2							2
数学	数学Ⅰ	3							3
	数学Ⅱ	4							4
	数学Ⅲ	6							6
	数学Ⅳ	2							2
理科	物理学基礎	2							2
	物理	4							4
	化学基礎	2							2
	化学	4							4
生物	生物基礎	2							2
	生物	4							4
	地学基礎	2							2
	地学	4							4
保健体育	体育	7~8							7~8
	保健	2							2
	音楽Ⅰ	2							2
	音楽Ⅱ	2							2
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3							3
	コミュニケーション英語Ⅱ	4							4
	コミュニケーション英語Ⅲ	4							4
	英語表現Ⅰ	2							2
家庭情報	家庭基礎	2							2
	社会と情報	2							2
	各学科共通教科計	20	21	16	20	16	63	63	63
	家庭フロンティア	2~6							2~6
美術	美術Ⅰ	2~6							2~6
	美術Ⅱ	2~9							2~9
	美術Ⅲ	3~14							3~14
	美術Ⅳ	2~6							2~6
探究	アートサイエンスⅠ	2							2
	アートサイエンスⅡ	1							1
	アートサイエンスⅢ	2							2
	学校設定教科計	2	2	1	2	2	7	7	7
特活	ホームルーム活動	1	1	1	1	1	3	3	3
	総合的な学習の時間	3~6							3~6
	合 計		33	33	33	33	99	99	99

1 3年次系の1〇, 2〇印は、該当科目の中からそれぞれ1科目を選択する。  
 ※「地学応用」は学校設定科目である。  
 ※「探究」は学校設定教科、「アートサイエンス(Ⅰ~Ⅲ)」は学校設定科目である。  
 ※「総合的な学習の時間」3単位と「社会と情報」2単位は、学校設定科目「アートサイエンス(Ⅰ~Ⅲ)」の5単位で代替する。  
 ※「美術Ⅰ」2単位は学校設定科目「美術探究」2単位で代替する。

## 平成29年度 熊本県立第二高等学校SSH運営指導委員

氏名	所属・職名
1 八田 泰三	崇城大学工学部ナノサイエンス学科・教授
2 鳥居 修一	熊本大学大学院自然科学研究科(工学系) 先端機械システム・教授/ 熊本大学グローバルカレッジ・副カレッジ長
3 鈴木 克明	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授 システム学専攻・教授
4 佐藤 哲	熊本県立大学環境共生学部居住環境学科・ 准教授
5 井上 幸喜	宝塚大学東京メディア芸術学部・教授
6 府高 隆	熊本県知事公室・政策調整監
7 大脇 光一	ソニーセミコンダクタ マニュファクチャリング株式会社
8 櫻井 祐二	県立教育センター・指導主事

## 熊本県立第二高等学校スーパーサイエンスハイスクール第1回運営指導委員会

- 1 期日 平成29年7月18日(火) 10:00～12:20  
 2 会場 熊本県立第二高等学校合併教室  
 3 出席者 SSH運営指導委員8人, JST SSH南地区担当  
 主任調査員 鈴木清史先生 熊本県教育庁関係  
 職員, 熊本県立第二高等学校関係職員

### 4 内容

#### 【廣瀬審議員挨拶】

県教育委員会は県内の理数教育推進の拠点として第二高校を位置付けておりますので、今後も先導的な研究に取り組んでいただきたいと思っております。熊本県では熊本地震の経験から防災教育を進めておりますが、御校ではSSH校としての強みを生かした教育を行っていただければと思っております。さらに11月には、県内のスーパーハイスクール7校で合同発表会も予定しております。県教育委員会ではSSH事業の推進に全面的に支援していきたいと思っております。

#### 【那須校長挨拶】

今回の指定では、美術科・普通科に関しても探究のエッセンスを普及させていきます。申請書の中にはSSH研究開発計画を示しております、3年先、5年先の到達点を目指して研究を行っていきます。スーパーサイエンス事業を行うメインの1つの実験室が使えない状況にあり、プレハブ仮設校舎に移設しております。最初に評価の指標に関して取り組んだのは家庭科であります。この家庭科の調理実習室も地震で被災しました。なんとか工夫しながら家庭科も教育実践を行ってきました。熊本県のSSH校も4校になり、SSH校、県内の理数教育発展に寄与していきたいと考えております。

#### 【八田委員】

第4期のテーマは震災に関するもので、内容が濃いと思いますが、他の学校にはないテーマがあると思います。私には目標があります。私は大分舞鶴高校のSSH運営指導委員も務めおり、第二と舞鶴の両校の良い面をそれぞれの学校に伝えていき連携して発展できたらと思います。

【大脇委員】：探究活動の全校展開に際し、すべての先生方をどんな方法で巻き込んでいくのですか？

【福田】探究科目で多くの先生方が探究に関わります。また、研究テーマ2では探究型授業の開発で巻き込んでいけたらと考えています。授業開発部の取組が重要で、教務部、進路指導部との連携から始めて行きたいと思っております。

【井上委員】美術はファジーな面が多いので数値で評価することとはとても面白いことです。美術を客観視するということが普通科、理数科の連携で落とし込んでいくことが見えてくれば第二高校の良さが出ると思います。

【八田委員】大学ではどのような評価をされているのか。

【井上委員】例えば、デザインは人を動かす言葉というもの。絵を見れば何か感じる。多くの人に見てもらって、いろんな評価をいただく。それも第3者に。また、評価はターゲットを絞ったやり方、絞らないやり方があります。絵画はターゲットを絞らないやり方で評価をします。

【佐藤委員】大学でのジェーンズ邸ペーパーフラフト企画は、いろんな学科の学生に取り組んでもらっていて、製品開発、マーケティングといった専門の異なる学生でプロジェクトを行っています。普通科・理数科・美術科がミックスしたチームがあるならば、お互いの足りないところを補いながら今までにないような探究ができるのではないかと思います。

【鈴木委員】職員の研修について。教員は自分の教科はよく知っているのですが、一緒にやろうという好きではないという方もいらっしゃると思います。今まで理数科だけでやっていたことを全校巻き込んでやっていく。新しい概念を理解するために教師が勉強していく。ICEの目指しているような形でインポートしていかなければならず、従来型の研修ではダメで研修の研究も必要になってきます。何かあれば協力させていただきます。

【鳥居委員】教科のシラバスをどのように生徒に提示していくのか。今後、ICEの形で示していくことを考えていく必要があります。毎時間の授業のシラバスも示されていくのですか。

【今村清】年間のシラバスをICEの形で示してみました。第4期では毎時間の授業の内容をICEに落とし込んでいくことを目標にしています。

【那須校長】現在のシラバスの中には、I,Cレベルの内容は含まれています。目標では必ずEレベルの内容を含むことにしています。3年後をめどにと考えています。

【大脇委員】シラバスの中にある「みつめる力、きわめる力、つなげる力」とICEはどんな関係なのか。

【染森】美術科は「みつめる力、きわめる力、つなげる力」とICEを結びつけるのは難しかったので、美術科の中のIは技術の習得、Cはコンセプトを立ててものを作り出す、Eは作家を育てると考えています。このICEの表は生徒もですが、教員が3年間の見通しを立て授業を行っていく申し合わせ事項の意味も込めて作りました。美術はどこまでやっても終わりのない要素もありますので、やるべきことを区切っておこう、生徒のステップを上げることを考えています。

【府高委員】私は熊本地震からの創造的復興の県政全般の政策立案の調整をやっているのですが、地震以降、仕事の取組が変わっています。仕事の量、スピード。第二高校が行っている取組の目的、手法は我々の現場にとっても役に立つことだと考えています。職員にも科学的探究力が必要であると感じています。この取組によって人材育成していただき、県内全体の高校生のレベルアップにつながれば良いと思います。

【佐藤委員】大学と高校が連携する上で、生徒同士もそうですが、教員同士の連携も必要です。そういった機会が生まれてくれば良いと思います。県立大のもやいすとプロジェクトは震災関係も扱っています。

【大脇委員】生徒が変わるためには先生達も変わらなければならない。先ほどの染森先生の授業ではファシリテーションの要素が多いように感じました。先生方のファシリテーションを学ぶ機会とはどうされていますか。教育委員会からの支援等はあるのですか。

【染森】GRの中でファシリテーション能力が育成されます。毎年20人の先生方が身に付けていきます。教育相談部との連携でSST等の企画もあります。しかし、発展途上の部分はあります。

【櫻井委員】教育センターでは支援しています。ルーブリックやICT活用についても研修があります。

【鈴木委員】美術科が科学に関わったということで、STEAM教育と結びつけると世界の最先端を走っているということを示すことができます。

※STEAM: Science(科学), Technology(技術), Engineering(工学), Mathematics(数学)を統合的に学習する「STEM教育」に、Art(芸術)を加えて提唱された教育手法。